

## 第7回総務常任委員会会議記録

開閉会日	平成26年9月10日（水曜） 午後 1時30分 開会		
	休憩 14:06~15:30 15:32~15:52 15:56~15:57		
	午後 4時03分 閉会		
会議場所	役場3階 第1委員会室		
出席委員氏名	委員長 藤森善一郎	委員 中野 武彦	議長 広瀬 重雄
	副委員長 青木 定之	芽室地区連合会長 小林 琢巳	
	委員 梅津 伸子	北教組芽室支会会长 山崎 祐一	
	委員 西尾 一則	北教組芽室支会 竹田 和彦	
欠席委員氏名			
説明等に出席した者の氏名	学校教育課長松浦智幸 課長補佐 坂口勝己 学校教育係長 高瀬義則		
事務局職員	事務局長 西科 純	次長 剣持和裕	

### 『会議に付した事件と会議結果など』

#### 1 開会

#### 2 議件

##### (1) 審査事項

「義務教育費国庫負担制度堅持・負担率2分の1への復元、「30人以下学級」の実現をめざす教職員定数改善、就学保障充実など 2015年度国家予算編成における教育予算確保・拡充に向けた意見書」の提出を求める陳情

#### 3 その他

##### (1) 次回委員会の開催日程について

##### (2) その他

#### 4 閉会

#### 2 議件(1) 審査事項

ア 「義務教育費国庫負担制度堅持・負担率2分の1への復元、「30人以下学級」の実現をめざす教職員定数改善、就学保障充実など 2015年度国家予算編成における教育予算確保・拡充に向けた意見書」の提出を求める陳情

・松浦学校教育課長から資料により説明後、質疑を行う。

・梅津委員： 4Pの表のような教職員の身分は。

- ・松浦課長： 正職員であるが、中には急きょ児童生徒が増えて人事上、期限付の場合はある。
- ・梅津委員： 町内にはいるか。
- ・松浦課長： 現在はいない。
- ・西尾委員： 生活保護対象者に与える影響は。
- ・松浦課長： 生保対象者は生保制度の中で対応となり、町の支援は修学旅行費にのみである。
- ・梅津委員： 新年度の対応はどうなるか。
- ・松浦課長： 今年度であれば2月に教育委員会で協議している。国的情勢が大きく変わ以外、現制度は準拠される。
- ・中野委員： 少人数学級の成果は。
- ・松浦課長： 平成24年度以前から小1については35人学級を施行している。
- ・梅津委員： 少人数学級の方が学力の向上につながるということが述べられるが、今回の陳情についてはどう考えるか。
- ・松浦課長： 教育委員会としても同様の考え方であると言える。

(休憩)

- ・参考人として小林琢巳氏（芽室地区連合会長）、山崎祐一氏（北教組芽室支会会長）、竹田和彦氏（北教組芽室支会）を招き、小林琢巳氏から陳情の趣旨等の説明後、質疑を行う。
- ・中野委員： 30人のことであるが、理想は国立教育研究所では20人としているがなぜか。
- ・参考人： 私の担任のクラスは6人であるが、行き届いた教育ができている。理想は20人ではあるが、以前は45人、40人を受け持ってきたが、実際はできるだけ少ない方がいいが、現実的な路線として30人としている。
- ・中野委員： 擬態的に見込める例は。
- ・参考人： 私は、現在40人のクラスを受け持っている。1時間という時間で見る時間、つまずいている生徒にかける時間がない。1時間で1分程度となってしまう。生徒同士の関係、手を上げる生徒に当てるのも困難であり、弊害部分がある。学力への影響よりも生徒の意欲に関わる問題と捉えている。
- ・中野委員： 子どもには無限の可能性があると考える。個性を引き出せることにつながるのではないか。
- ・参考人： 教師と生徒の間の「人ととの関係」は大きい。関わり方として時間だけではなく質の問題となる。コミュニケーションなども大きい。小規模校に勤務しているがゆえに私はそういえるが、まだ他校について踏み込めていない。
- ・梅津委員： 願意のとおりと考えているが、40人学級は先進国としては日本だけであり、恥ずかしい。現場の先生たちが動かしてきた経緯はある。学力テストなどもあるが、それよりも少人数学級が望ましい。

- ・青木委員： 陳情文面を読み全くそのとおりと考える。三位一体から削減された教育費であるが、学校現場で行き届いた教育のためには必要である。就学援助制度の内容もあるが、学校教育課でも充実化するように努めていると考えているが、どのようにみているか。
- ・参考人： 芽室町においては、町の方針として子どもたちを大事にするという観点で、子どもの権利条例や自治基本条例が制定されているなかで、厳しい財政状況の中で、予算化されていることで町には感謝している。
- ・青木委員： 加配制度についてはどうか。
- ・参考人： 早期に少人数学級をとも考えているが、財政状況から困難であろうと考えている。それを踏まえて教育執行方針や教育予算をみて特色ある学校づくりのために尽力はしたい。教員が増えることは生徒のために必ずなると考えている。
- ・西尾委員： 陳情の内容はそのとおりであろう。他の町村の陳情内容をみると福祉学級の解消など、他の内容も含まれているが、教育委員会に対して何か言い分はないか。
- ・参考人： 予算要求の場で申し上げたいと考える。

### 3 その他

- (1) 次回委員会の開催日程について 9月16日（火曜）午後1時30分
- (2) その他

- ・事務局長から2点について説明。
- ・9月定例会議の振り返りは各委員会で行っていただくこと。
- ・政策討論会の提言に向けて協議をお願いしたいこと。

以上をもって委員会を閉会する。

傍聴者数	一般者	2名	報道関係者	0名	合計	2名
------	-----	----	-------	----	----	----

平成26年9月10日

総務常任委員会委員長 藤森 善一郎